



# 夜間景観ガイドライン

夜も楽しさあふれる 福井のまちなか

～誰もが主役に！夜景リノベーションへの挑戦～

令和8年3月 福井市

## 目次

はじめに	2
福井市の夜間景観づくりの目標	3
夜間景観ガイドラインの目的	4
第1章 魅力ある夜間景観をつくるために	
1-1. 福井市のまちづくりの方向性	5
1-2. 夜間景観の資源	7
1-3. エリア別夜間景観形成の考え方と 照明の演出手法の例	9
①城址・中央公園エリア	10
②養浩館・城址東側エリア	11
③大手エリア	13
④駅周辺エリア	14
⑤東公園エリア	15
⑥北の庄・中央1丁目エリア	16
⑦浜町エリア	17
⑧足羽川エリア	18
⑨足羽山・愛宕坂エリア	19
第2章 ケーススタディ	
2-1. 店舗のあるプロムナード	21
2-2. 緑陰のある街路・ポケットパーク	23
2-3. 商店街のあかり	25
2-4. 風情のある料亭街のあかり	27
2-5. 市民に愛される川沿いのあかり	29
第3章 あかりの基礎知識	
3-1. 照明器具の種類	31
3-2. 色温度	33
3-3. 鉛直面の明るさ感とは	33
3-4. 照明制御と省エネルギー	34
3-5. 照明設置の豆知識	34
3-6. 用語解説	34
第4章 魅力ある夜間景観づくりの進め方	35

## はじめに

福井市では、豊かな自然と歴史・文化が調和し、日本の原風景を感じさせる「福井らしい景観」を大切にしています。市民が誇りを持ち、いつまでも住み続けたいと思えるまち、そして誰もが「住んでみたい」と感じるような“心地よい”景観の形成を目指し、『福井市景観基本計画』および『福井市景観計画』を策定しています。

これらの計画の中では、「魅力ある夜間景観の創出」が重要なテーマとして掲げられており、本ガイドラインは、行政、住民（建築主、地主なども含む）、民間事業者など、その地域に関係する全ての方が参考とできるように、福井市が目指す夜の景観のあり方や、その方向性を共有するための指針として位置づけられるものです。

## 夜間景観ガイドライン改定の背景

平成20年7月、福井市では「夜間景観ガイドライン」を策定しました。これは、ライトアップやイルミネーションなどの自主的な取組が増えてきたこと、夜間の外出機会が広がるなどライフスタイルが変化してきたこと、そしてJR福井駅の整備や中心市街地の再開発といった都市の動きが背景にありました。

それから15年以上が経ち、LEDの普及など照明技術は大きく進展しました。計画的に進められてきた都市開発により福井のまちは大きく姿を変え、新幹線の開業後は、県内外から多くの人々が訪れるようになり、まちなかではこれまでにないにぎわいが見られるようになっています。

こうした中で、まちの魅力をさらに高める開業効果を一過性のものとせず持続させていくためには、まちなかで時間を過ごす人々の満足度を向上させ、都市景観づくりがこれまで以上に求められます。特に、夜間における景観の質は「居心地がよい」と感じるような満足度や滞在時間に大きく影響し、にぎわいを育み続ける鍵となります。

快適に感じられるような夜間景観の実現には、行政だけでなく、多様な主体の協力が不可欠です。これまでのガイドラインは、策定から時間が経過したこともあり、照明技術の進展やまちの変化を反映できていないほか、行政側の視点に比重が置かれていた側面もありました。そこで今回、福井の夜間景観をより魅力的なものに育てていくため、多くの人々が利用しやすいものとなるよう「福井市夜間景観ガイドライン」を見直すこととしました。

# STATEMENT

## 夜も楽しさあふれる 福井のまちなか

～誰もが主役に！夜景リノベーションへの挑戦～

### 福井市の夜間景観づくりの目標

福井のまちなかは、県都福井の玄関口としての役割を担い、交通の要所であると同時に、商業・行政・業務などの都市機能に加え、歴史文化遺産や自然環境も徒歩圏内に集まる、非常に魅力的なエリアです。これまで、県や市、経済団体など多様な主体が連携しながら、「県都ブランドデザイン」に代表されるまちの将来像や長期的なビジョンを描いてきました。その中で、人々の多様な活動がより充実し、歴史や自然はもとより、まちなかの多様な魅力が共に輝き、それらを歩いて楽しめるまちづくりを目指しています。

夜間景観の充実は、ベースとなる安全・安心な環境形成を目指すものであると共に印象的な景観の点在を促進するもので、それらをつなぎあわせることによってさらなる回遊性の向上につながると考えます。福井市では、昼とは異なる魅力を持つ夜のまちを実現するにあたり、「夜も楽しさあふれる 福井のまちなか」を新たな夜間景観づくりの目標としました。この目標には、福井らしさを感じられる美しく居心地の良い夜間景観づくりを、公共と民間の両方の取組によって実現し、夜間にも市民や来街者がまちを楽しむことができ、誇りと豊かさを誰もが感じるまちなかを目指そうという思いが込められています。

※福井のまちなか：P5,P6の地図に示す9つの歩いて楽しめるエリアを想定しています。

## 夜間景観ガイドラインの目的

福井らしさを活かした魅力的で居心地の良い夜間景観のあり方を示す

魅力的で居心地の良い空間を形成するためには福井のまちなか固有の自然や歴史資源などといった景観資源を活用するとともに、公共空間はもとより公共施設や店舗、住宅など、まち全体で調和のとれたあかりをデザインすることが重要です。本ガイドラインは、まちなかのエリアごとの特色を活かした照明手法やケーススタディを示し、光の整備・演出のあり方を示すことを目的とします。



城跡のライトアップを中心にまちなかのあかりの整備によって回遊性を図っている（鳥取市）

誰もが参加し、まちを楽しむためのあかりの活用方法を示す

夜も楽しめるまちなかには、絵になる夜景や居心地の良いあかりの点在など、場所の魅力や人々の活動を感じさせる夜間景観が形成されます。

本ガイドラインでは、市民が過ごしたくなる公共空間づくりや居心地の良い民間商業エリアづくりに有効な手法を紹介し、公共の照明整備にとどまらず市民も夜間景観づくりに参加し、ともに福井のまちなかを磨き上げていく未来のイメージを示すことを目的とします。



面的な民間修景建物のライトアップによって街の夜間景観づくりを行っている平戸城下旧町地区（平戸市）

安心して快適に過ごせる、夜間景観のあり方を示す

夜間景観の整備・演出は、福井のまちなかを対外的にアピールして人を集めることだけが目的ではなく、光を適正に配置・調整し、夜間も安全で快適に暮らせる環境を創出することが基礎となります。

本ガイドラインは、安全・安心で、楽しみながら歩ける、暗がりの無い歩行者空間を形成するとともに、地域全体の夜間の快適性を高めるための光の創出のあり方を示すことを目的とします。



スポットライト型街路灯によりまぶしさを抑えたなんさん通り（大阪市）

持続可能でやさしいあかりのあり方を示す

魅力ある夜間景観とは、ただ明るく照らせばいいという訳ではありません。不快なまぶしさを抑え、色温度に配慮した的確な照明計画と時間による調光制御など、省エネや環境への配慮も重要です。

本ガイドラインは、光害の防止や昼間の景観への配慮、自然環境への負荷の軽減を図るため、環境にやさしくて適切なあかりのあり方を示すことを目的としています。



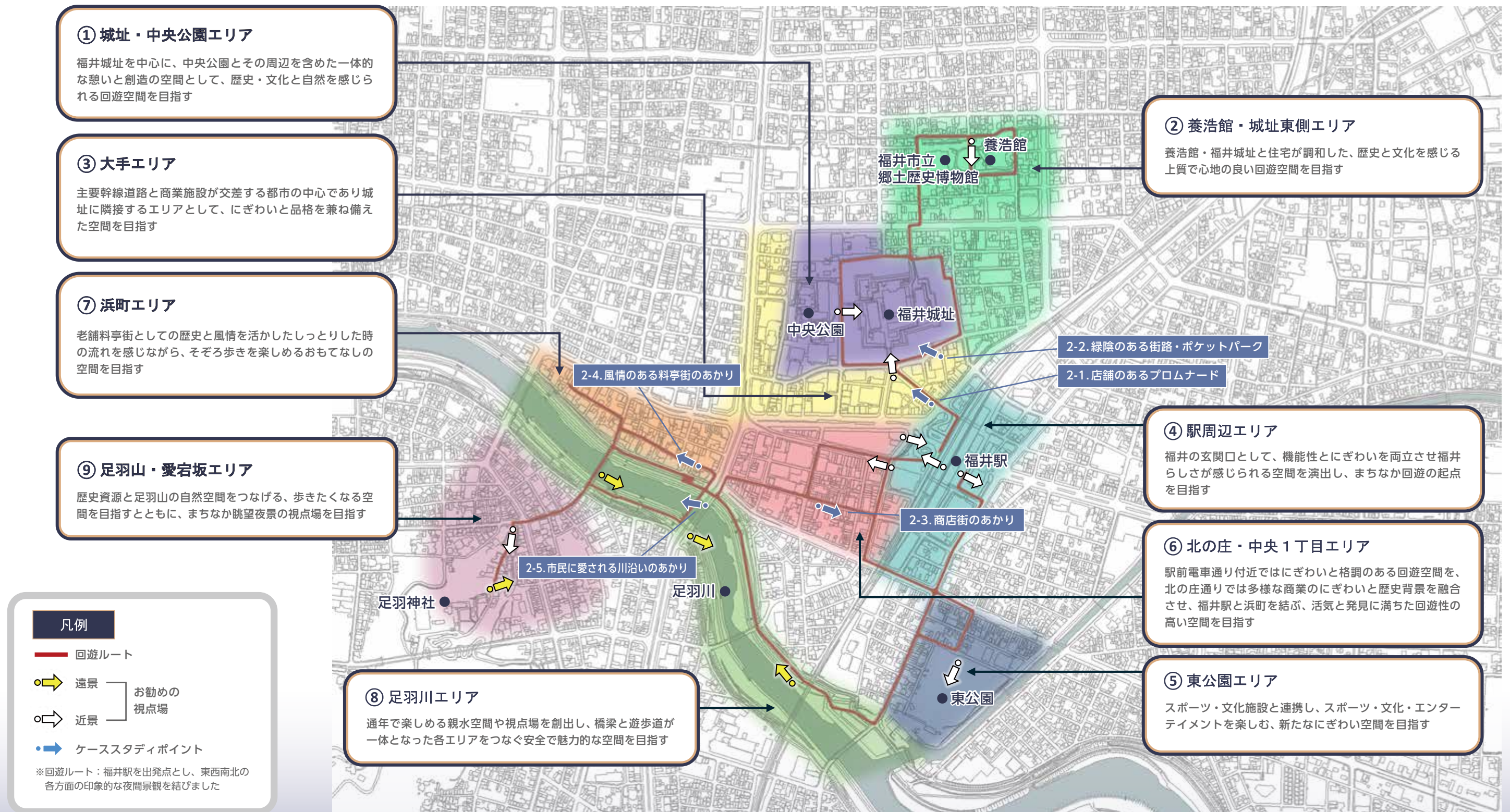
全域を調光制御することで、深夜のエネルギー消費を抑えている草津川跡地公園（草津市）

# 魅力ある夜間景観をつくるために

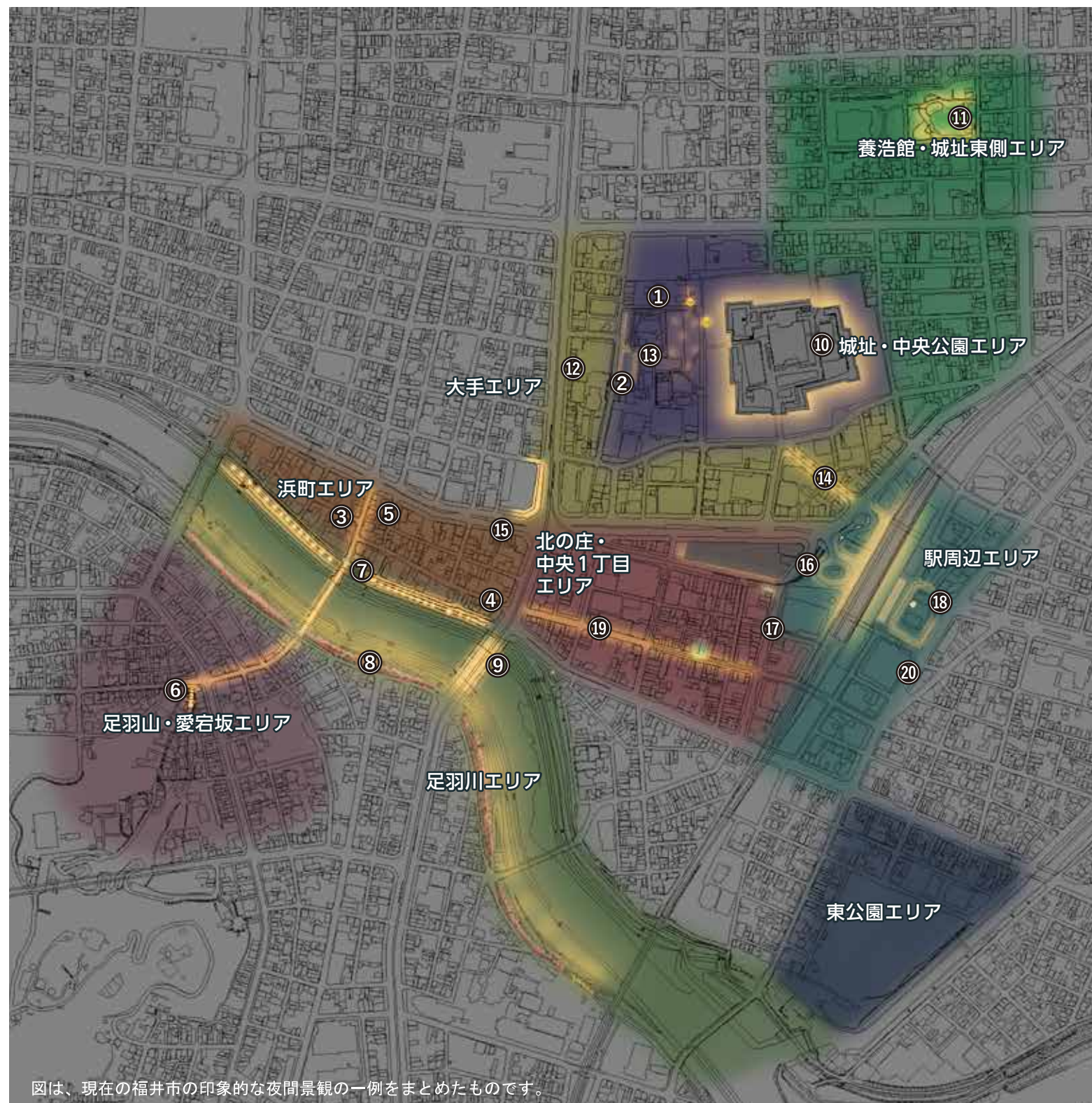
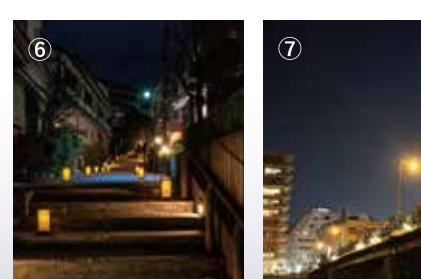
まちなかには、観光客、市民、通勤・通学者など、様々な属性の方が来訪します。魅力ある居心地の良い夜間景観は、あらゆる人々の心に留まり、滞在時間の延長や回遊を促すことにつながります。本章では、エリアごとの特徴や景観資源を示すとともに、照明計画を作成する際に必要な手法やポイントを示していきます。

## 1-1. 福井市のまちづくりの方向性

福井市では、まちなかの9つのエリアを夜間景観形成の重点エリアと捉えています。以下の図はそれらのエリアとエリアごとのまちづくりの方向性を示したものです。



## 1-2. 夜間景観の資源



### 1-3. エリア別夜間景観形成の考え方と照明の演出手法の例

9つのエリア別にあかりの現状と今後の方針を示しています。各エリアに関連する照明の演出手法を、各ページ下段に示していますが、該当のエリアに限らず、市内の様々な場所で活用できるように多くの手法を示しました。

各ページの見かた



- エリアの名称と特徴
- 現状の景観
- コンセプト：将来のありたい姿
- あかりの方向性：コンセプトに向けた対応
- 【演出手法】  
掲載ページのエリアに必要な手法を中心に解説していますが、そのエリアに限らず様々な場面で活用できる例示

#### シーン別の演出手法の例

##### 住宅の新築・改修をしようとしている



- ・樹木ライトアップのコツ (P10)
- ・小壁や建物外壁への間接照明の手法 (P11)
- ・行灯の効果 (P11)
- ・和の情緒のある住宅のあかり例 (P11)
- ・防犯効果もある住宅外構の演出 (P12)
- ・駐車場の景観的な工夫 (P17)
- ・坂や階段の照明手法 (P19)
- ・庭先や店舗前の仮設照明の工夫 (P19)

##### 店舗をつくらうとしている・店舗まわりに磨きをかけたい



- ・建物外壁の演出手法 (P12)
- ・軒下や壁面の照明手法 (P12)
- ・店舗外部のあかり (P16)
- ・路地や細街路のあかりの工夫 (P16)
- ・公共空間でのイベントや仮設照明の手法 (P16)
- ・建物漏れ光の効果・閉店後の工夫 (P17)
- ・駐車場の景観的な工夫 (P17)
- ・店前の庭や塀まわりのあかりの工夫 (P17)
- ・庭先や店舗前の仮設照明の工夫 (P19)

##### 行政で公園や道路整備を担当している



- ・樹木ライトアップのコツ (P10)
- ・ベンチや手すりなどの間接照明 (P10)
- ・防犯灯設置の工夫 (P12)
- ・広場や歩道の照明 (P13)
- ・道路照明の考え方 (P14)
- ・モニュメントなどをライトアップする (P14)
- ・芝生広場の照明 (にぎわい創出の工夫) (P15)
- ・プロムナード・ストリート演出の工夫 (P15)
- ・駐車場の景観的な工夫 (P17)
- ・手すり照明やベンチ下照明の事例 (P18)

##### 地域でまちづくりに取り組んでいる



- ・樹木ライトアップのコツ (P10)
- ・ベンチや手すりなどの間接照明 (P10)
- ・防犯灯設置の工夫 (P12)
- ・公共空間を活用するイベントにおける照明の工夫 (P15)
- ・公共空間でのイベントや仮設照明の手法 (P16)
- ・駐車場の景観的な工夫 (P17)
- ・庭先や店舗前の仮設照明の工夫 (P19)

#### ① 城址・中央公園エリア

歴史資源である福井城址と、緑の多い開放的な中央公園・屋根付き遊具広場からなる、水と緑のうらおいがあり、歴史的な雰囲気を残しているエリア



**コンセプト** ・周辺エリアの中心として、歴史・文化と自然を感じられる回遊空間を目指します

**あかりの方向性** ・福井城址石垣ライトアップ及び城址内の樹木等の夜間景観資源化  
・堀外周部の暗がりを無くすことによる、安全・安心な環境の形成

#### 演出手法

##### 樹木のライトアップのコツ

樹木のライトアップは基本的に「木の根元から幹に沿って照射」します。照明機材は30～40°の広角を使用するのが一般的です。また、樹種や樹形によって配灯する位置の調整が必要です。公共空間では、盗難・グレア対策と角度が変わらないようにガードや遮光ボックスを設置します。



歩行者がグレア (不快なまぶしさ) を感じないような設置方法を検討します。スポットライトには配光 (光の広がり) に幅があるので適切な配光の器具を選択します。ルーバーやフードが取り付けられるスポットライトはまぶしさを軽減できます。昼間の景観に配慮し、器具をできるだけ目立たせないように設置しましょう。大きく枝が広がっているサクラやモミジに限っては、幹を照らし上げると同時に外側から枝先方向を照らし上げることも行います。この場合は、照射方向の建物などに差し込まないように注意します。



##### ベンチや手すりなどの間接照明による安心感の創出



歩行者がグレア (不快なまぶしさ) を感じないような設置方法を検討します。特にベンチなどの屋外家具の間接照明の場合は光源の地面への映り込みに注意し、光があたる面はツヤ消しにします。昼間の景観に配慮し、器具が見えないように隠します。光源が少しでも直接見えると間接照明の効果が損なわれます。

## ② 養浩館・城址東側エリア

名勝養浩館庭園、芝原用水といった歴史資源とその周辺の低層住宅からなる、落ち着いた住環境が保たれているエリア



コンセプト	・歴史と文化を感じる上質で落ち着いた心地の良い回遊空間を目指します
あかりの方向性	・住宅街らしい落ち着いたあかり（電球色） ・庭園ライトアップの期間延長（冬季を想定） ・白壁への間接照明や芝原用水の演出など夜間景観資源としての磨き上げ

福井の歴史を象徴する福井城址があり、周辺は住宅・事務所・店舗等が並び、ホテルや病院も立地するエリア



コンセプト	・城址と調和した安全で快適な回遊空間を目指します
あかりの方向性	・城址周辺の落ち着いたエリアにふさわしい色温度（電球色）による統一 ・暗がりやグレア（不快なまぶしさ）の無い安全・安心で快適な空間への改修

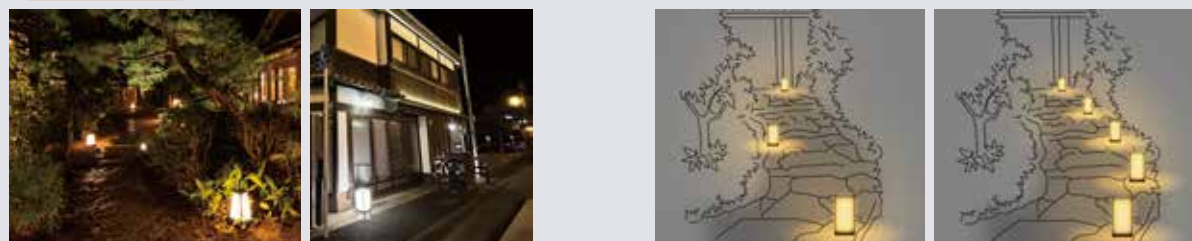
### 演出手法

#### 小壁⇔建物外壁への間接照明の手法



白壁などの壁面は、細いテープ状のLED照明（テープライト・ラインライト）による間接照明を設置すると沿道の安心感が高まります。

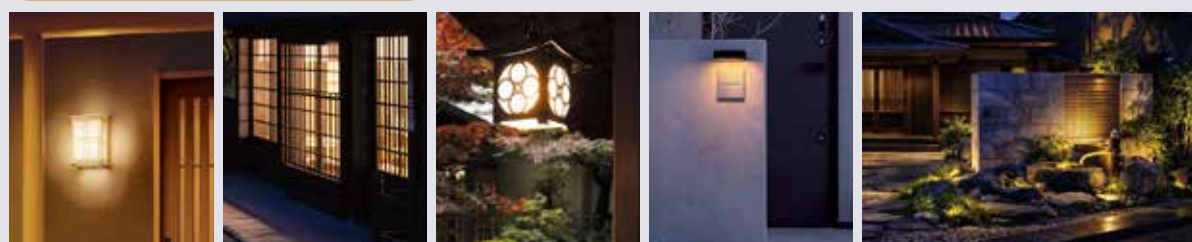
#### 行灯の効果



行灯は視線を誘導し、歩行を促す効果があります。また、界隈性とエリアの安心感を高めます。後から追加できる効果的なあかりです。

行灯は置き方によって印象が変わります。伝統的な日本庭園では、ずらして配置するのが作法。連続させてあかりのリズムを楽しむ手法もあります。

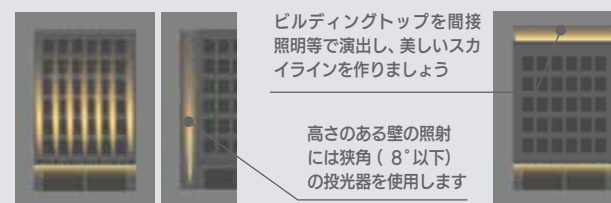
#### 和の情緒のある住宅のあかり例



シンプルな黒色の機能照明や樹木ライトアップなども和風の住宅に適しています。

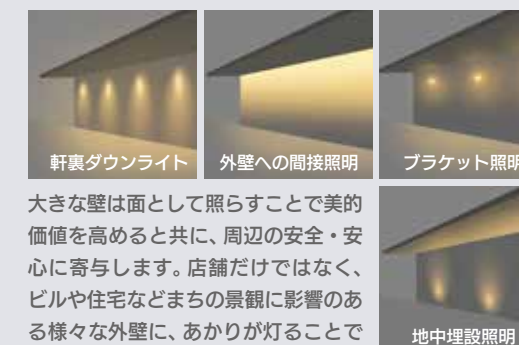
### 演出手法

#### 建物外壁の演出手法



建物の形状や外観デザインに応じてそれらを活かす照明演出を行います。閉店後も点灯することで、ビルイメージを向上させると共に周辺の安心感を高めます。間接照明が最適です。

#### 軒下⇔壁面の照明手法



大きな壁は面として照らすことで美的価値を高めると共に、周辺の安全・安心に寄与します。店舗だけではなく、ビルや住宅などまちの景観に影響のある様々な外壁に、あかりが灯ることで防犯性能も高まります。

#### 防犯灯設置の工夫

住宅街における安全・安心の確保に利用される防犯灯。既存の電柱に取り付けるもの他に施設の外壁に取り付けるタイプなど様々な選択肢があります。落ち着いたまちなみとするには、電球色が良く、近隣へのまぶしさを抑制するタイプのものがおすすめです。明るさは白色も電球色もほぼ同じです。



#### 防犯効果もある住宅外構の演出



住宅の外回りが暗いと不審者が身を隠しやすいため、住宅外構の照明演出は近年防犯にも役立つと言われています。人が近づいた時にだけ明るくなるセンサーを利用した照明など、様々な防犯に役立つ照明器具が発売されています。

### ③ 大手エリア

幹線道路に囲まれた業務機能が集合するオフィス街であり、市役所、郵便局等の公共施設も立地しているエリア



コンセプト	・にぎわいと品格を兼ね備えた空間を目指します
あかりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁線の磨き上げ（福井駅から城址へと誘うあかりの創出）</li> <li>・公共照明のグレア改善と色温度の統一</li> <li>・沿道に面した建物には、建物正面の外観ライトアップを推奨</li> <li>・城址と調和するオフィス街のあかり</li> </ul>

#### 演出手法

##### 広場や歩道の照明【街路灯】



上方に無駄な光を拡散させない灯具、路面を効率よく照らす灯具を採用することが望ましく、グレア（不快なまぶしさ）を感じさせない照明が歩行の快適性を高めます。

##### 建物ライトアップ等がある場合のポール照明の配光について



### ④ 駅周辺エリア

交通結節機能・公共施設・宿泊機能等の都市機能が集積しており、来街者に福井を最初に印象付けるエリア



コンセプト	・機能性とにぎわいを両立させ、福井らしさが感じられる空間を演出し、回遊の起点を目指します
あかりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路照明のグレア改善と色温度の統一</li> <li>・東公園から足羽川へと誘うプロムナード照明の整備</li> <li>・恐竜モニュメントのライトアップ等、福井ならではの演出の強化</li> </ul>

#### 演出手法

##### 道路照明の考え方



全方向に光が拡散する灯具は、光源が直接見えるものが多く、グレア（不快なまぶしさ）を感じやすくなります。

この手法では無駄な光が上方に拡散し、効率よく路面を照らせません。伝統的なまちなみや温泉地などの観光地では、周辺の落ち着いたあるあかりに対し白色の光は調和しにくいものです。

上方に無駄な光を拡散させないようグレア（不快なまぶしさ）を感じさせない灯具（下方配光型・スポットライト型等）を選ぶようにします。

伝統的なまちなみや温泉地などの観光地では、色温度の低いもの（電球色）が落ち着いたある景観を創出します。

##### モニュメントなどをライトアップする際の注意事項



照明器具には、同じ機種の中に【広角（およそ40°以上）】、【狭角（およそ15°以下）】と配光に幅がある製品があります。埋設照明は近づく光源のグレアが目に入るため、なるべく光が広がらないものを選ぶようにします。

## ⑤ 東公園エリア

住宅や店舗が建ち並び、スポーツ・文化・エンターテインメントを楽しむ東公園と、足羽川と荒川が合流する水と緑の空間からなるエリア



### コンセプト

・スポーツ・文化・エンターテインメントを楽しむ、まちと自然がつながる新たなにぎわい空間を目指します

### あかりの方向性

- ・芝生公園のにぎわいと安心感創出の工夫
- ・ベンチ下照明や手すり照明による安心感創出の工夫
- ・建物や橋梁、工作物の照明演出による回遊性の創出
- ・樹木のライトアップなど象徴景観の演出

### 演出手法

#### 芝生広場の照明（にぎわい創出の工夫）



スポットライトポール

芝生広場の滞留イメージ

ライティングファニチャー

ベンチ下間接照明

#### プロムナード・ストリート演出の工夫



フラッグ付きスポットライトポール

樹木のライトアップ

樹木のライトアップと下方配光のポールで演出された快適な陰影のあるプロムナード

#### 公共空間を活用するイベントにおける照明の工夫



広場を利用したマルシェイベントなどで多用されるテント。電球色の小さなあかりを点在させると華やかな雰囲気になります。

パーティーライト  
100Vコンセントにさして使用します。

ソーラーライト  
性能の良くないものもあるので、品質の事前見極めが大切です。

充電式ライト  
店主が管理できる体制であれば、充電式の照明も有効です。

## ⑥ 北の庄・中央1丁目エリア

駅前電車通りや南通りを中心とした再開発ビル・百貨店・路面店が融合する地区と、北の庄通りを中心とした特色ある店舗・オフィス・食文化・歴史が複合する地区とが隣接する福井の商業空間を代表するエリア



### コンセプト

・個性豊かな商店街や商業施設の特色を活かした回遊空間を目指します

### あかりの方向性

- ・小規模店舗のあかりの工夫
- ・路地の暗がりの払しょく
- ・アーケード照明の改修
- ・季節ごとや仮設での照明演出の工夫

### 演出手法

#### 店舗外部のあかり



耐久性の高いビニール製でも和紙風の風合いがあります

軒先提灯：誘客効果

植栽用間接照明の低ボール灯があります

植栽のライトアップ：上質感

スポットライトで照らしましょう

日よけ暖簾：演出効果

サインを照らすタイプの他に、バックライト等様々な手法があります

サイン演出：視認性創出

#### 路地々細街路のあかりの工夫



壁からのスポットライト

路地に行灯

軒裏に間接照明

ベンチ下間接照明

公共照明の設置ができない細街路では、民間照明による演出が重要です。外壁からのスポットライトや壁面間接照明、民間敷地での低ボール灯や露地行灯、ファニチャーを利用した照明効果など様々な工夫が考えられます。

#### 公共空間でのイベント仮設照明の手法



中高木のイルミネーションは必ず高所作業車による設置撤去が必要となり費用もかかります。植栽や花壇への設置は簡単で誰でもできるのでお勧めです。電球色で点滅の無いストリングライト等を設置しましょう。

イベント時のライトアップに廉価で最適なクリップライトもあります。クリップ式もあります。枝につける超小型のスポットライトも使用します。

## ⑦ 浜町エリア

足羽川に隣接し、足羽山を背景とした桜並木を望むことができる幕末や明治期の偉人ゆかりの地であり、洗練された飲食店が立ち並ぶ風情のあるエリア



### コンセプト

・歴史と風情を活かした時の流れを感じながらそぞろ歩きを楽しめるおもてなしの空間を目指します

### あかりの方向性

・情緒的な和の界限性を感じさせる、居心地の良いあかり  
 ・店舗からの漏れ光や駐車場の印象を変える工夫  
 ・足羽川沿い、さくらの小径のあかりの整備

### 演出手法

#### 建物漏れ光の効果・閉店後の工夫



縦格子からの漏れ光

ショーウインドウのあかり

窓からの漏れ光

不在を感じさせない工夫

ショーウインドウや街路に面した窓などのあかりは、閉店後も点灯することで店舗の印象も高まり、エリアの安全・安心にも貢献します。写真は、閉店後も二階の窓あかりをタイマーで点灯している倉敷美観地区の様子

#### 駐車場の景観的な工夫



白壁や木塀によるイメージ作り

駐車場看板の工夫

木塀による目隠し効果

植栽帯があるだけでも大きく印象はかわります。

#### 店前の庭や塀まわりのあかりの工夫



白壁や木塀の間接照明

行灯の設置

樹木のライトアップ

玄関灯

低ポール灯

## ⑧ 足羽川エリア

日本のさくら名所百選にも選ばれた約600本・全長2.2kmに渡って広がる桜並木が特徴で、アクティビティ拠点施設の整備やライトアップが進んでいるエリア



### コンセプト

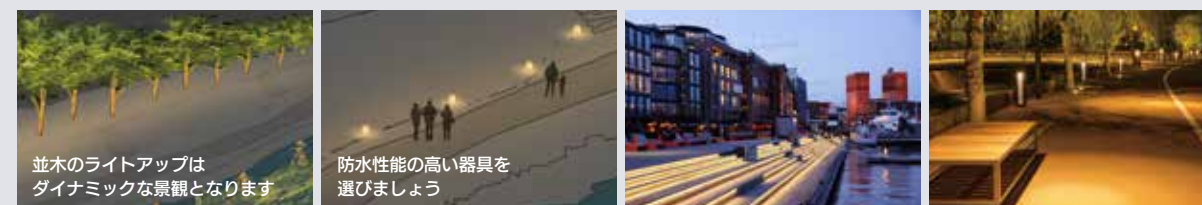
・橋梁と遊歩道が一体となった各エリアをつなぐ安全でにぎわいのある魅力的な空間を目指します

### あかりの方向性

・桜並木を魅せる  
 ・かわまちづくりなど水辺の利活用を支えるあかり  
 ・連続するランドマークである橋を活かした足羽川ならではの橋梁ライトアップ

### 演出手法

#### 河川水辺の照明手法



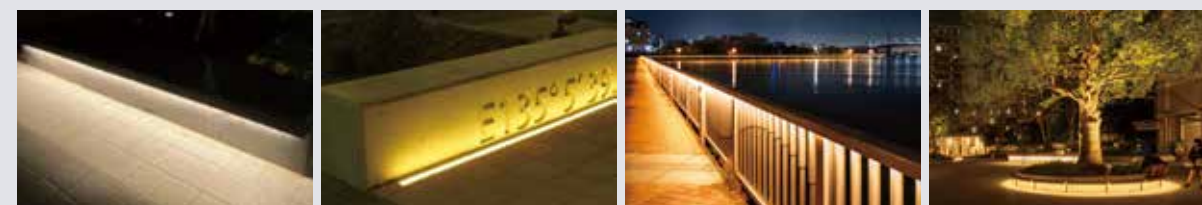
並木のライトアップはダイナミックな景観となります  
堤防並木のライトアップ

防水性能の高い器具を選びましょう  
園路照明

雁木(がんぎ)の間接照明

路面照明

#### 手すり照明とベンチ下照明の事例



ベンチ下間接照明

ベンチアッパーライト

手すり間接照明

植栽樹ベンチ間接照明

#### 橋梁照明のポイント



素材を活かしたライトアップ例  
地域の歴史・文化を視覚化。通行時にグレアのない照射が望ましいです。

形状を活かしたライトアップ橋梁は市民の誇りとなる重要なランドマーク

高欄照明によって快適で心地よく安全な橋上歩行空間を実現した例

構造美を活かした照明で、橋下空間の暗がりも美しくした例

## ⑨ 足羽山・愛宕坂エリア

市街地の南西に位置し、神社の参道として利用されてきた愛宕坂や市街地を間近に見下ろす展望広場が整備されており、自然豊かなまちなかの里山として市民に親しまれているエリア



### コンセプト

・歴史と自然を感じるまちなか眺望の視点場として、安全で歩きたくなる空間を目指します

### あかりの方向性

・神社域の建物および工作物を活かしたエリアイメージの創出  
 ・坂の風情を生み出すあかり  
 ・福井駅から愛宕坂をつなぐあかりの工夫で回遊性を創出

### 演出手法

#### 神社・仏閣の照明手法



鳥居のライトアップ

山門や建物のライトアップ

景石や灯ろうの演出 竹林や庭木の演出

#### 坂々階段の照明手法



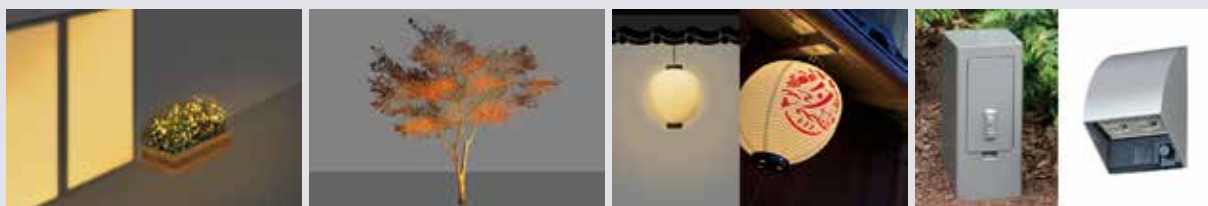
階段の手すり照明

石垣など鉛直面の間接照明

壁上部からの投光

壁面に足元灯を配置

#### 庭先・店舗前の仮設照明の工夫



小さな花壇でもイルミネーションは可能です。

紅葉や桜など季節の樹木のライトアップ

軒先提灯  
屋外にはビニール製が適しています。

屋外用コンセントを設置しておけば、季節の演出も簡単になります。

# 2

## ケーススタディ (5カ所)

### 本章のねらい

本章では、前章までの夜間景観の考え方等を踏まえ、印象的で居心地のよい夜間景観を具体的にイメージします。夜間照明を整備したときにどのように見えるのかを、実際にふくいのみちなかの景色を切り取り、例を示しています。なお、示している例はあくまでライトアップなど演出手法の一例です。様々な場所、建物、自然などをライトアップすることで夜間の景観がどのように変化するかを、昼間と夜間の現状写真とともに比較してみてください。

### ケーススタディのポイント

1. 福井らしい・そのエリアらしい夜景を目指します
2. 来街者ももとより市民や民間事業者にとって快適で安心感があり、居心地の良い誇れる環境を目指します
3. 公共と民間のそれぞれが、未来の景観を想像し取り組んでみたくなるイメージを示します

### あかりの改善によってまちの印象は大きく変わります

#### ◆ 不安な場所から



名古屋豊成団地

白い街灯のみで暗がり広がり危険を感じる環境から、樹木ライトアップによって安心感が高まった例

#### ◆ 安心な場所へ



#### ◆ 不安な歩行空間から



長門湯本温泉

最低限の明るさを確保する照明から、観光地にふさわしい明るさ感と美的価値を創出した例

#### ◆ 快適で誇れる環境へ



## 2-1. 店舗のあるプロムナード

### 福井駅から城址へみちびくプロムナード

福井駅から城址に向かうプロムナードは、福井まちなかの回遊性において重要なプロムナードの一例です。奥に見えるランドマークが視点の中心となり、暖かなあかりの連続性によって歩きたくなる街路の表情を創り出していくことと、周辺店舗の漏れ光や建物のあかりの連なりがポイントです。



昼の様子



夜の様子

#### 💡 照明整備のポイント

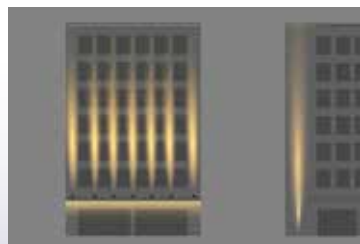
- ・ランドマーク（城址石垣）のライトアップ
- ・街路全体の色温度の統一や調和
- ・民間施設からの漏れ光や店舗照明による界限性の創出
- ・視線を誘導する街路照明の追加
- ・街路樹やベンチなどのファニチャーの照明演出



樹木のライトアップ



路面の明るさを高める  
スポットライトポール照明



建物壁面のライトアップ



誘客効果のある軒先提灯

#### 整備例



スポットライトポールによるプロムナード照明。路面の明るさはしっかり確保できながら周辺の店舗のあかりも視認しやすくなります。



店舗外観のあかりは重要なまちのあかりです。提灯や置き照明が使われます。内照式サインもできるだけ電球色の光源を使用しましょう。



ストリートの先が明るく演出されていると、誘導する効果があります。ライトアップされた城跡は視点の集まる場所となり良好な夜景観をつくります。



民間施設のあかりが街路に安心感をつくる

## 2-2. 緑陰のある街路・ポケットパーク

### 福井城址を眺め散策する喜びのある遊歩道

ランドマーク周辺の公園や遊歩道は、歩道整備が進んでおり日中はランドマークを眺めながら心地よく散策できますが、夜間は暗がりも多く安心して散策できる場所は限られています。夜でも安心して心地よく散策・滞留でき、美しくライトアップされた石垣等を眺められる暖かな電球色で統一された環境づくりがポイントです。



昼の様子



夜の様子

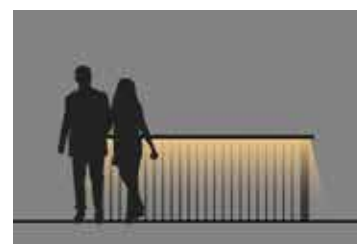


#### 照明整備のポイント

- ・手すり照明による遊歩道路面の明るさ確保
- ・樹木ライトアップにより鉛直面の明るさ感の創出や、和風の低位置照明による安全・安心な遊歩道環境を整備
- ・ファニチャーや東屋付近の照明整備



樹木のライトアップ



手すり間接照明



基壇間接照明



行灯スタイルの低位置照明

#### 整備例



街路樹の  
ライトアップ

東屋のあかり溜まり

ランドマーク（城址）のライトアップ

行灯風・低位置照明  
(ゆったりした和のあかるさ感)

手すり間接照明



イメージ

堀沿いの転落防止柵やベンチ等に間接照明を配置し、足元に安心感のある明るさが確保できます。やわらかなあかりに包まれるような絵になる広場のイメージです。



イメージ

東屋など屋根のある滞在用施設は、夏の暑さや雨・雪を気にせず滞在できる公園の便利な施設ですが、暗がりになりやすいため工夫が必要です。手すりやベンチなどの間接照明を組合せ、居心地の良い行きたくなる公園を目指します。



米子市

東屋天井への間接照明により快適な明るさが確保できます。写真は米子市での社会実験の様子です。

## 2-3. 商店街のあかり

### いつも何かがある、夜も個性豊かな商店街

魅力的な商店街には店舗それぞれの個性豊かなあかりがあります。商店街らしい建物や路地の小さなスケールを活かした、多様なあかりの点在がポイントです。全体的な色温度は電球色が望ましいですが、店舗のイメージに合わせた不統一感は、個性のあるにぎわいを感じさせます。店舗の漏れ光や外観の間接照明やサインのあかり、提灯や裸電球も似合う多様なあかりに満ちた環境を整えましょう。また、路地の暗がりの払しょくも必要です。



昼の様子



夜の様子

### 照明整備のポイント

- ・漏れ光の工夫（店舗内照明の工夫）
- ・路地／細街路の暗がりを民間施設の照明によって払しょく
- ・店舗サイン照明や店舗外壁のライトアップ
- ・季節ごとや仮設イベントでの照明演出の工夫

### 整備例



サインやブラケット照明が店舗への期待感を高めている

街路樹は日常に四季の移り変わりを感じさせ、居心地の良い空間を構成する重要なアイテム

若々しい小規模商業施設のあかりと調和する暖かな電球色の街路灯

大きな窓が複数設けられ店舗からの漏れ光が心地よい

民間施設の壁面に設置された照明によって、良好な路地の明るさが確保されている

質感の高い半たわみアスファルト舗装

辻に面した店舗では、大きな通りからの印象づくりと共に、細街路の明るさ感創出につながる工夫をすることで回遊性が高まる



路地を照らす壁面からのスポットライト



壁面の照明やファニチャーを利用した照明効果



視認性を創出するサイン演出



誘客効果のある軒先提灯



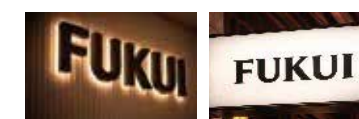
民間施設からのスポットライトによる路地のあかり。建物からの投光で安心感のある細街路になります。「路地」と「通り」の交差する「辻」では、通りから路地を見る見通しの印象が重要で、路地の奥にあかりがあると行ってみたいくなります。また、路地から見た辻が明るければ、通りに誘われる効果がありサバンナ効果と呼ばれています。

### 看板の種類例



店舗のサインや屋外広告物には様々な種類がありますが、なるべく内照式はやめましょう。（デザイン的に最適な場合は除く）設置の際は福井市の屋外広告物および景観のルールを守りましょう。

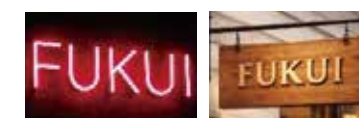
### 看板の照明イメージ



切文字のバックライト



箱型看板照明



ネオンサイン



木製看板などには外から照明をあてましょう



箱文字の内照タイプ（バックライト付）

### アーケードの改修例



アーケードの骨格に似合うクラシカルな照明器具と点のあかりによる演出。店舗の漏れ光も良い印象（円頓寺商店街）



キャノピーに改修し間接照明と光柱を設置（田辺商店街）



電球色の間接照明をアーケード全体に実施し印象を一新（戎橋筋商店街）

## 2-4. 風情のある料亭街のあかり

### 上質な風情のある界隈のあかり

歴史的な料亭街では、料亭やレストランの漏れ光や店舗外観が、風情のある景観を形成するうえで重要です。また、エリア全体で色温度を統一し、店舗のあかりをたどりながらそぞろ歩きを楽しめるような、公民連携での情緒的なあかりがポイントです。各所にある駐車場は、サイン照明の色温度の改善や目隠しフェンスなどの整備により景観の向上に大きく寄与します。



昼の様子



夜の様子



### 照明整備のポイント

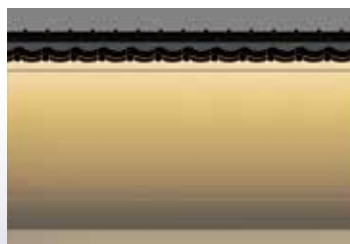
- ・窓や入り口などからの漏れ光や店舗内のあかりの効果
- ・路地/細街路の暗がりを払しょく
- ・駐車場の見え方の工夫、駐車場照明の色温度の改善
- ・和の情緒のある公共照明など、上質感が重要なエリア



行灯や置き照明の効果



提灯やのれんの風情



白壁や生け垣へのあかりの工夫



窓や玄関など格子からの漏れ光

### 整備例

二階の窓からの漏れ光も夜間の景観づくりでは重要

入口のあかりや情緒のある装飾照明が和のまちなみをつくれます

入口・窓など1階の開口部のあかりは重要。格子など和の要素が浜町エリアに最適

グレアのある街路灯を輝度の低いものに変更

民間施設の植木ライトアップ

既存照明ポール  
スポットライトを共架

スポットライトポールの光のつらなりがまちなみの連続性を強調

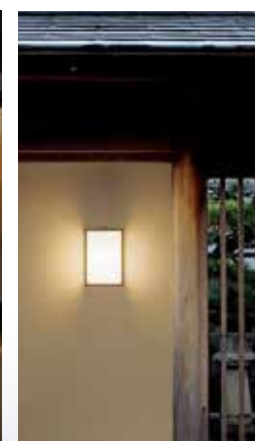
駐車場の背面や道路境界に木塀や白壁を設置し、殺伐とした印象を和らげる

和風の低位置照明（公共・民間）



イメージ

駐車場敷地境界や道路境界付近に、浜町らしい素材感のしつらえを行えばエリアの印象が非常に整います。



民間店舗や住宅の照明（ブラケット照明、提灯、行灯、樹木ライトアップ、壁面間接照明、建築ライトアップなど）を積極的に更新し、浜町らしさを演出することが重要です。



イメージ

桜橋線は駅から愛宕坂に続く回遊ルートなので、視線を誘導する照明の追加が望ましいです。

## 2-5. 市民に愛される川沿いのあかり

### 眺めて心地よく、過ごして快適なあかり

足羽川は福井を代表する一級河川で堤防沿いには日本有数の桜並木が続き、春には多くの花見客で賑わいます。近年は親水公園や遊歩道が整備され、川沿いでは散歩やランニング、イベント開催など、水辺を生かした市民交流の場として活用が進んでいます。



昼の様子

夜の様子



### 照明整備のポイント

- ・橋梁の照明演出
- ・高水敷遊歩道/天端遊歩道の暗がりの払しょく
- ・利活用を支える明るさの創出
- ・橋下空間の安全・安心感



桜並木のライトアップ



遊歩道の足元照明



埋設照明による路面投光



スポットライトポール

### 整備例

#### 桜の常設ライトアップ



#### 桜橋のライトアップ (橋脚・手すり)

水中照明にカバーをかけた角型足元灯

桜並木の遊歩道は、夜間にも安全・安心に通行できるように低ポール灯などの整備が重要です。



イメージ

河川敷では様々な利活用が計画されており、活動の中心となるエリアでは日常の明るさ確保が重要です。ヨリバ付近は護岸天端遊歩道部からスポットライトポールで大きな明るさを確保できます。



ヨリバ付近の河川敷イメージ



桜橋のライトアップイメージ

護岸天端の遊歩道には転落防止柵や手すりへの間接照明などを設置し、路面の明るさと安心感を獲得できます。また、点在する桜のライトアップも重要です。



ヨリバ付近の河川敷利活用例



橋梁下空間のイメージ

橋梁下空間の安全・安心確保も重要です。



木田橋のライトアップイメージ

各橋梁は河川景観の重要な夜間景観資源なので、優先順位をつけながら照明演出を行います。利活用エリアの幸橋、浜町エリアと接する桜橋、東公園に接する木田橋は水門と共に重要な景観資源です。

## あかりの基礎知識

照明に関する専門用語や技術情報を解説します。

### 3-1. 照明器具の種類

国内には、街路灯や防犯灯、公園灯、建物を照らす景観照明など、さまざまな照明器具があります。まちづくりでは、夜道を安全にする、安心感を高める、街を美しく見せるなど目的が異なるため、場所や用途に合った照明を選び、上手に使い分けることが大切です。



道路照明



車道用のハイポール照明。LEDになり白色以外に電球色もあり、まちの景観に配慮した色温度選択が可能となりました。

スポットライトポール



高いポールの上にスポットライトが配置されているポール照明。一か所から複数の場所を狙うことができ、また上空に不要な光を発生しないので世界的に採用が増えています。

街路灯



歩道や広場に使われる基本的な公共照明。近年の公共空間整備では、グレアの無い下方配光のものが推奨されています。

低ポール灯 (ポラード)



1m以下のポール照明で、街路に点在し足元を照らします。

行灯 (置き照明)



和の情緒のある置き型の照明で、和風のまちなみや庭園では重要な景観構成要素となります。

地中埋設照明



地面に埋設して使用する投光器。樹木や彫刻などのライトアップに使用します。

水中照明



噴水やプール、滝などに使用する照明。常に水没する場所では必ず水中照明を使用します。

足元灯



壁面に埋め込んで使用する照明。足元の路面の明るさを確保します。

間接照明 (テーブルライト)



細い光源なので階段やベンチの下、手すりなどに隠して使用します。

スポットライト



屋外の演出で最も使用する照明器具。スパイク式で地面に差すものもあります。光源の強さの違いだけではなく、配光も狭角から広角まで様々な種類があり、演出する対象によって使い分けます。

ブラケット



壁面に取り付け使用する照明器具。拡散型や遮光型などテクニカルなものだけでなく、デザイン性の高いものもあり、店舗や空間のイメージ作りにおいても効果を発揮します。

間接照明 (ライン照明)



高さのある壁面や土木構造物などに間接照明を実施したい時に使います。光源が見えないように遮光することが重要です。

ダウンライト



軒下や店舗前などに使用する基本的な照明。埋め込み型のダウンライトの他に直付けのダウンシーリングもあります。屋外用・軒下用などの性能を確認して使用します。

### 3-2. 色温度

#### 照明の色温度とは？

照明の色温度とは、光の色合いを示す尺度で、単位はケルビン (K) です。数値が低いほど赤みがかった暖色、高いほど青白い寒色となり、空間の雰囲気や心理的印象に影響を与えます。本ガイドラインでは、主に電球色による照明演出を紹介しています。



色温度の違いで空間の印象は大きく異なります。

落ち着いた情緒あるまちには電球色が最適です。



2000K  
ろうそくの炎

2700K～3000K  
電球色

5000K～6000K  
白色

9000K 15000K  
PC画面 太陽光

### 3-3. 鉛直面の明るさ感とは

#### 人の視野の7, 8割はタテの面（鉛直面）を見ています！

人の視野の7,8割はタテの面（鉛直面）を見ています。そのために「鉛直面の明るさ感」は重要です。夜間の環境において、その場所に対して「明るい」と感じるには、壁や樹木などの鉛直面に対して明るさがあることが重要です。



建物外壁や店舗の店前などが室内からの漏れ光や外壁のライトアップ等によって明るさ感が高い場合、街路全体に明るさ感と安心感が高まります。

路面の照度を基準通りに設計していても、鉛直面に暗がりがあれば、暗さや不安を感じることがあります。



樹木のライトアップによって、鉛直面の明るさ感を高め安心感を獲得した事例

### 3-4. 照明制御と省エネルギー

LEDの普及により、今日では公共空間でもエリア全体での調光制御が可能です。エリアごと、街路ごとに深夜でも安全・安心な明るさを保ちつつ、大幅なエネルギー削減が可能で、欧州では2012年ごろから急速に普及しており、美的価値と安全・安心と環境配慮の同時実現が広がっています。



日没～21:00

必要なすべての照明が80%以上の明るさで点灯し、演出に特化した照明などが消灯し基本的な明るさをトータルで整ったエリア夜景となります。

21:00～24:00

演出に特化した照明などが消灯し基本的な明るさを確保するあかりのみが60%程度で点灯。

24:00～夜明け

常夜灯となる安全・安心を確保するための基本の照明のみが点灯。大きな省エネルギーが図れる。

#### 照明制御の手法例

- ①タイマー制御 分電盤内にタイマーを設置し、通電時間をコントロールする方法。
- ②明るさセンサ 暗くなると点灯し、明るくなると消灯するしくみ。①と組み合わせて使用する。ただし調光はできない(システムを組めば可能)。
- ③制御信号での制御 制御盤(もしくは制御システム)を設け、各機器をグループもしくは個別に制御する。時間に応じた明るさの設定が可能。
- ④手動方式 スイッチもしくはリモコン(スマートフォン含む)によって、特定の照明器具をコントロールする方法。

### 3-5. 照明設置の豆知識

#### 屋外コンセント

建物の外壁にもコンセントを設置できます。新築や改修時に電気工事業者に依頼します。

#### 屋外用照明器具

屋外では防雨・防水性能のある照明器具を使いましょう。照明器具の防じん防水性能はIPという国際規格で示されており、屋外ではIP65～IP68と表記されているものを使用します。

#### 延長コード

屋外で延長コードを使う場合は結束部が雨などで濡れないように注意します。延長コードも「屋外用」を使用しましょう。

#### 照明器具はどこで買える？

一般的に照明器具は店頭販売をしておらず、ごく一部の器具がホームセンターや家電量販店にあるだけです。照明メーカーのホームページでは、用途別や設置位置別に検索できる場合もあるので、照明メーカーのホームページを参照して検討しましょう。

#### 照明演出の相談

照明演出を実施したい場合は、照明メーカーや対象空間の設計者に相談しましょう。また住宅規模の屋外照明に特化し、使い方のアドバイスをしているメーカーもあります。

### 3-6. 用語説明

#### 照度

光で照らされた面の明るさの度合いを表す物理量です。単位はルクス (lx) です。道路など様々な環境で推奨照度が設けられていますが、照度確保だけでは環境の快適性は得られません。

#### 輝度

光源や反射面をある方向から見たときの「まぶしさ」の度合いを示す数値です。単位はカンデラ (cd) です。※画面や光源自体の明るさを表す際に重要で、照度が「照らされている明るさ」であるのに対し、輝度は「見えの明るさ」に直結します。

#### グレア

視野内の明るい物体による不快な「まぶしさ」や、それによって物が見えにくくなる視覚現象のことです。

#### 配光

照明器具や光源から放射される光の方向性や広がり方で、空間の明るさの均一性や影の出方を決定するため、照明設計において非常に重要です。

#### 間接照明

光源からの光を壁や地面に反射させて利用する照明手法で、柔らかくムラのない光が空間に広がります。設置時に光源が直接見えないことが重要です。

## 魅力ある夜間景観づくりの進め方

福井市のこれからの夜間景観について「福井市景観審議会」(都市や建築等の学識経験者、各種団体、行政、地元事業者やあかりの専門家等で協議)を開催し、「福井市夜間景観ガイドライン」を策定しました。「ガイドライン」を策定するだけでなく、市民一人ひとりが福井市の夜間景観を創っていくという意識を持ち、あかりの整備を計画する際に本ガイドラインをご活用いただき、夜間景観を少しずつ整えていくことが大切です。ここでは、発案から実際の整備までの流れと仕組みを紹介します。



### ガイドライン参照



## よくある質問

### ガイドラインの対象は？

本ガイドラインでは、福井のまちなかについて重点的に夜間の演出手法について記載していますが、構成している要素は市内全域で活用できる汎用的な内容です。そのため照明設置の際などは、エリアにとらわれず是非とも本ガイドラインをご活用ください。また照明や景観に関する基礎知識がない方にも伝わるように、視覚的で理解しやすい内容となっていますので一般市民の方から、施工業者の方までの共通理解のツールとしてもご活用ください。

福井市特定景観計画区域：福井都心地区エリア



### 整備の際には届出が必要なの？

福井市全域が景観計画に基づく景観計画区域であるため、一定規模以上の建築物等の新築、増築、外観変更等を行う場合に30日前に景観法に基づく景観届が必要です。事前相談や届出時に、本ガイドラインを周知し、照明等の計画にあたり本ガイドラインを活用していただくよう依頼しています。届出対象に該当しない規模であっても、設計・施工の際には是非、本ガイドラインをご活用ください。

※届出対象行為の詳細は都市整備課までお問い合わせください。

対象区域	福井市景観計画区域	福井市景観計画区域：福井市全域
届出対象行為	福井都心地区、一乗谷地区	(左記の福井市特定景観計画区域を除く)
建築物の新築、増築、外観変更など	延べ床面積10㎡超 (外観の変更の場合は実施面積10㎡超)	■ 店舗等 高さ12m超、又は延べ床面積1,000㎡超 ■ 事務所、住宅等 高さ18m超、又は延べ床面積2,000㎡超

### 専門家の意見を聞けないの？

福井市には景観アドバイザー制度があり、良好な夜間景観の空間づくりに関する助言を行います。詳しくは都市整備課までご相談ください。

### 整備費用について補助制度はあるの？

本ガイドラインに即したまちなかでの良好な景観形成に資する整備を「景観まちづくり事業補助金」等で支援しています。ただし、補助制度は毎年様々な状況にあわせて変更となりますので、詳しくは都市整備課までお問い合わせください。

## あとがき

「夜も楽しさあふれる 福井のまちなか」を目標として改定された本ガイドラインは、訪れる人々へのおもてなしだけでなく、福井で暮らし活動する方々が「心地よい」と感じられる景観づくりを目指しています。質の高い夜間景観は、まちに安心感を与え、日々の時間を豊かに彩ります。こうした空間は、行政だけでなく、事業者や建築主、地主の方々など、福井市に関わる皆様の力が欠かせません。そのため、誰もが「自分でできること」を具体的にイメージできるよう、事例や図解を豊富に取り入れた「分かりやすさ」にこだわりました。

本ガイドラインは「福井のまちなか」を主な題材としていますが、そこで示した演出手法等は、市内全域で活用できるものばかりです。エリアの枠を超え、特徴を活かした空間づくりに広く役立てていただけることを願っています。そうして灯された一つ一つのあかりが、福井らしい情緒を織りなしていきます。その積み重ねにより、自分たちの住むまちへの愛着を深め、誇りへとつながっていくことが、本ガイドラインに込めた真の願いです。

結びに、策定にあたり多大なご協力をいただきました関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。ワークショップの開催や広報活動により、多くの方に本ガイドラインを知っていただき、福井の夜が、皆様と共に一歩ずつ、より魅力的なものへと発展していくことを目指して、これからも歩みを止めることなく尽力してまいります。